

文化庁委託事業
「平成 28 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

平成 28 年度
江戸糸あやつり人形 結城座
人形遣い体験入門研修事業 報告書



目次

全体の講義概要	2～3
---------------	-----

長期コース

人形実技（結城座 人形遣い一同）	4～7
能の発声法と所作（津村禮次郎 先生）	8
日本舞踊（西川右近 先生 西川鯉之祐 先生 西川貴美子 先生）	9
長唄（今藤政太郎 先生）	10
鳴物（田中傳次郎 先生）	11
人形芝居概要（田中純 先生）	12
受講生のアンケートより	13

短期コース	14～16
-------------	-------

人形実技の講義を終えて（十二代目結城孫三郎）	17
------------------------------	----

全体の講義概要

【長期コース】

●実施期間 平成28年7月～平成29年3月

●授業日 月・水・土曜日

(人形実技120分＝1コマ その他の特別講義120分＝1コマ)

●実施場所 結城座

●参加者数 11名 (女性10名 男性1名／20代 2名 40代 1名
50代4名 60代 3名 70代 1名)

●講座一覧

科目	講師	授業数
人形実技 (実習を含む)	結城座人形遣い一同	81コマ
能の発声法と所作	津村禮次郎	7コマ
日本舞踊	西川右近 西川鯉之祐 西川貴美子	7コマ
長唄	今藤政太郎	3コマ
鳴物	田中傳次郎	2コマ
人形芝居概要	田中純	2コマ

●成果発表会、裏方実習

平成28年8月 夏休み！親子で学ぶ伝統芸能（於 三鷹市芸術文化センター星のホール） 本番鑑賞、稽古・楽屋裏見学

平成28年11月 青少年古典芸能鑑賞&体験教室（於 結城座稽古場） 裏方

平成29年1月 「ドールズタウン」（於 ザ・スズナリ）稽古・本番参加
(該当者1名)

平成29年3月 「修禅寺物語」（於 結城座稽古場）出演 裏方

【短期コース】

- 実施期間 平成28年 8月5(金)、6(土)、7(日)、11(木・祝)、13(土)、
14(日)、20(土)、21(日)

5(金)	6(土)	7(日)	11(木・祝)	13(土)	14(日)	20(土)	21(日)
9:30～11:00 人形実技1	10:30～12:30 能の発声法と所作1	9:30～11:00 人形実技3	9:30～11:00 人形実技5	9:30～11:00 人形実技7	9:30～11:00 人形実技9	9:30～11:00 人形実技11	9:30～11:00 人形実技14
11:00～12:30 人形実技2	13:30～15:30 日本舞踊1	11:00～12:30 人形実技4	11:00～12:30 人形実技6	11:00～12:30 人形実技8	11:00～12:30 人形実技10	11:00～12:30 人形実技12	11:00～12:30 人形実技15
		13:30～15:30 日本舞踊2	13:30～15:30 能の発声法と所作2	13:30～15:30 日本舞踊3	13:30～15:30 日本舞踊4	13:30～15:00 人形実技13	

(人形実技90分=1コマ その他の特別講義120分=1コマ)

- 実施場所 立教大学池袋キャンパス
- 参加者数 6名(女性3名 男性3名/50代6名)
- 講座一覧

科目	講師	授業数
人形実技	結城座人形遣い一同	15コマ
能の発声法と所作	津村禮次郎	2コマ
日本舞踊	西川右近 西川鯉之祐 西川貴美子	4コマ

◆長期コース◆

人形実技 （8 1 コマ）

講師：結城座人形遣い一同

●開講式

結城座及び結城座の人形について解説。塾生自己紹介。お辞儀の仕方のレクチャー。



●手板の持ち方、人形を立たせる

稽古では各塾生の身長に合った人形を遣う。基本は男の大人の人形。左手で手板と呼ばれる操作盤を軽く持つ。手板は地面と水平になるように、どちらへも傾けずに持つ。遣い手の身体と手板の間に広い空間ができるように人形を立たせる。遣い手の足は肩幅程度に開き、膝は少し緩め腰を落とす。お腹やお尻を突き出さないよう注意する。遣い手の重心はつま先の方に置き、上半身は余計な力を抜いてリラックスさせる。人形を軽く持ち上げてから地面に下ろし、人形の足が地面に着く感覚を覚える。人形は糸で操るために各所緩みを持って作られており、人形を立たせることにも集中力が必要。



●足踏み、足踏み前進

右手で右の膝の糸を持ち、上下に遣うことで人形を足踏みさせる。人形の足は地面に着けたまま、手板は水平のまま遣う。足踏みの後は人形を前に押し出すように進む。遣い手の腰が左右に振れたり、腰が上下に浮くなどすると人形に大きな影響が出る。人形と遣い手の関係は変わらずに進む。



遣い手の移動を安定させるために、人形を持たずに歩く稽古も行う。



●手、頭その他の糸を遣う

人形についている色々な糸の場所や遣い方を学ぶ。基本的には左手で手板を持ちながら「顎を前に出す糸」「頭を左右に動かす糸」を遣い、右手でその他の糸を遣う。遣う際に人形が浮いたり、沈んだり崩れないように注意する。



左の手の糸



つま先の糸

●色々な動き

小走り、段を昇り降りする、ジャンプする、あぐらをかく、座る、お辞儀をする等、色々な遣い方を学ぶ。人形の重心・軸はどこになるのか、人間でやるならどのように身体を使うのか、どの筋肉を使うのか等を丁寧に考えながら、時には自分の身体を使いながら行う。



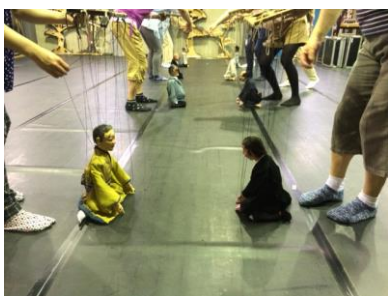
障害物を飛び越える



自分の身体でジャンプする



横になる



座る



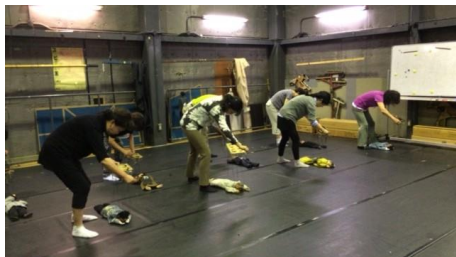
あぐらをかく



一歩前に踏み出す

●他の人と息を合わせる

足踏み他、色々な動きを行うなかで、周りの人と息を合わせて人形を遣うことを学ぶ。相手との距離、空間の把握、息のとり方など。時には人形同士の足を結んで、二人三脚を行うこともあった。



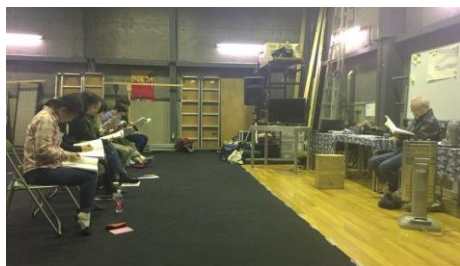
●裏方実習

11月に行われた結城座古典公演にて裏方実習。実際の公演の場で、お客様のお迎え、ご案内、お見送りを行う。



●発表会に向けての稽古、道具作り

最後に行われる発表会の演目が「修禅寺物語」に決まり、配役決め、読み合わせ稽古を行う。物語の筋、役の心情などを掘り下げて各々が役を作っていく。舞台美術のプラン設計、道具作りも塾生が行う。何度かの読み合わせの後には立ち稽古。制作した舞台セットの置き位置や、転換から、出入り、細かな動き、台詞、気持の流れ等、細かな指導が入り、お互いにすり合わせ、全体でひとつの作品になるよう芝居を作っていく。



読み合わせ稽古



立ち稽古



舞台セット作り



稽古が進むと、結城座の稽古場に舞台と客席を作り込み、照明・音響も入れての稽古が始まる。人形を遣うだけでなく、舞台装置の転換、人形へ小道具をつける介錯、幕の開閉、虫笛・鳥笛・大太鼓・鐘の音も塾生が担当する。公演間近は、通し稽古を行う。

●成果発表会 岡本綺堂 作「修禅寺物語」

一場
夜叉王の住処



二場
虎溪橋の袂



一場
夜叉王の住処



特別講義 能の発声法と所作（7コマ） 講師：津村禮次郎 先生

● 講義を終えて

今年で三回を迎え、参加される方々にもお顔馴染みが何人かいらっしゃいました。講座内容や講義の進め方にも違和感無く、新人の受講生も安心してクラスに溶け込み楽しんでいたようです。

講座内容は能の概論、歴史と発展を現代の視座から考えるように心がけた。その為には能の主要なエレメントを、能を分解することによって抽出し、面、装束などは実物や映像を用いて示した。また実際に着用して頂き、圧迫感や狭い視野などを体験してもらい、そこから生まれる身体の有り様の必然性を体感することができた。

実技指導は能の台本テキストである謡曲に主眼を置き、詞章の理解、読み解きと共に、糸操りと同時に発声できるようにトレーニングした。能の表現には、常に声(謡)と身体(舞)が、表現要素として同じ比重を持っている。今回は舞の実習に余り多くの時間が掛けられなかった事は少々心残りであったが次の機会に期待したい。また何より大切な事は文化遺産としての能楽は元より、現代の有り様を見つめて頂き、これからどうなるのかどうあるべきかを考える機縁になって欲しいとの思いで、創作作品や海外公演の映像を観賞し議論した。幸い地元小金井市には38回続き、今年39回を迎える小金井薪能がある。この薪能では古典の能狂言の他、現代の表現者たちを迎え、能とのコラボレーション作品を制作公演している。意外に身近にあるそれらのパフォーマンスを見聞き体験し、糸操り人形の業を学びつつ、古典と現代に続く日本の文化芸能の発展に少しでも関わって欲しいと思う。長期にわたる講座でしたが、本当にお疲れ様でした。受講生の皆様の頑張りに感謝致します。(津村禮次郎)

● 講義概要

- 第一回 能の成り立ち、関東・関西での違い、能面について、能の音楽について、能の動きの意味について、能面の名前の由来についての講義。
- 第二回 能の装束、音楽、物語の種類、翁についての講義。能舞台のつくり、つくりもの（大道具）、小道具に関して、映像資料を観ながら学ぶ。謡と仕舞の稽古。
- 第三回 「羽衣」謡の稽古。「羽衣」の映像資料を観ながら各場面の解説をしていただく。「菊慈童」の仕舞と謡の稽古。
- 第四回 雅楽の装束、楽器について説明していただきつつ、奉納尾舞台の映像を鑑賞。「菊慈童」の仕舞と謡の稽古。
- 第五回 大腰筋を鍛える運動。「猩々」キリの謡の稽古。
- 第六回 「猩々」謡と仕舞の稽古。仕舞では、形の意味を教えていただく。よろけるとき等に使われる、水が垂れるような足運び、たらたら足など。
- 第七回 モーツァルトやハイドンの弦楽に合わせてコンテンポラリーダンスとコラボレーションされた新作舞台の映像資料を鑑賞。「吉野天人」の謡と仕舞の稽古。



特別講義 日本舞踊（7コマ）

講師：西川右近 先生 西川鯉之祐 先生 西川貴美子 先生

● 講義を終えて

日本舞踊を学んでいただくには少ない回数ではありましたが、人形でお芝居をするために役立つもののひとつとして、日本舞踊の基礎を学んで頂きました。着物を着た時の身体の使い方、美しい所作をはじめ、役を務める上で、性別、年齢や職業、置かれている立場他様々なことによって身体の使い方や息の使い方が変わってくることを感じていただけたらと思います。美しい姿勢というものは時に身体にとって辛い姿勢ではありますが、お客様からどのように見えているのかを常に意識し、またそれが人形で操る時にはどうなるのか、というところまで落としていただき、人形で舞台に活かしていただければ幸いです。（西川鯉之祐）

● 講義概要

- 第一回 お辞儀の仕方、扇子の帯への入れ方・出し方、摺足、向きの替え方、上手・下手それぞれを向いた良い形、おすべり、扇子の扱い方、などを一通り御指導いただく。腰を落とし、お臍は常にぐっと下を向ける。西川流にとって非常に大切な曲という「重ね扇」の振りを教えていただく。
- 第二回 下手、下手への入り方、摺足、向きの替え方などの復習。女踊り「重ね扇」の稽古
- 第三回 「重ね扇」の振りを確認、一人ずつ指導いただく。音をかけて最後まで稽古。塾生同士で踊る組と見る組に分かれ、お互いの踊りを見て学ぶ。男踊り「黒田節」の稽古に入る。
- 第四回 基本的な動きの総復習、「重ね扇」の稽古、「黒田節」の稽古。「黒田節」で登場する槍を持つ振りのために、棒を実際に持って動きを確認する。
- 第五回 摺足の稽古。胸を開き肩甲骨を寄せ、肩を落とす稽古。男踊りの基本、立ち方、足を箱に割る、重心の載せ方の稽古。「黒田節」の稽古。
- 第六回 「黒田節」を音に合わせて最後まで踊る。
- 第七回 摺足、おすべり等の基本の稽古、「重ね扇」「黒田節」の稽古。塾生同士、互いの踊りを見ながら、先生の踊りを見ながら稽古。



特別講義 長唄（3コマ） 講師：今藤政太郎 先生

●講義を終えて 結城座入門塾特別講義

昨年、第三度目の頭書の講座で、邦楽のお話を致しました。前の二年は、三味線を教えようとしたが楽器が調達出来ず、お話と私達の演奏と更に苦肉の策として一メートルぐらいの棒を三味線に見立てて三味線を弾く動作（僕はエアー三味線と名付けています）に合わせて日本古謡「さくら」のメロディーを唄ってもらいました。受講者はそれを楽しんでいる様子ではありましたが残念ながら確かな達成感を得るまでには至りませんでした。

今回は幸いなことに三味線を調達することが出来、皆で三味線の持ち方、楽器の扱い方など初歩的ではありましたが三味線で「さくら」のメロディーを弾き、さらに伴奏をつけて唄もうたって合奏をすることも出来るようになりかなりの達成感を得ました。また、「勸進帳」のDVDを教材にして、何故「勸進帳」がこれ程日本人に好まれるのか、「判官びいき」という言葉をキーワードに、庶民の弱者に対する思いやほろびる者への美意識（ほろびの美）などの話をし、受講者の共感を得られたように思いました。またこの様な講座を通して日本の文化についてお話する機会があればと思います。（今藤政太郎）

● 講義概要

- 第一回 勸進帳の抜粋映像を教材に、日本における“滅びの美”についてのお話、様々な合方を聞く。三味線の渡来の歴史、江戸での流行について、三味線の構造や材料となる材木について学ぶ。撥の持ち方、指かけのかけ方、三味線の扱い方、構え方、弦の打ち方を教えていただく。先生の御指導により、全員で揃えて弦を打つ稽古をする。「さくらさくら」の口三味線を学ぶ。
- 第二回 三味線の構え方の復習、一人一人丁寧に指導していただく。三味線の調子について解説いただき、三味線の色々な奏法を学ぶ。先生の唄に合わせて「さくらさくら」を弾く稽古。
- 第三回 三味線の譜に関する講義。「さくらさくら」の稽古、唄にも挑戦する。唄の情景を思い浮かべながら三味線を弾く。「さくらさくら」の替手に挑戦し、本手と替手に分かれて合奏する。



特別講義 鳴物（2コマ） 講師：田中傳次郎 先生

●講義を終えて

今回も「歌舞伎音楽」の講義をさせていただきました。"音楽"というトリズムや音感を想像しますが、今回の歌舞伎音楽講義では「儀式音楽」「情景描写」「心理描写」など、楽器を使った“表現”というものを学んでいただきました。

最初の授業では大太鼓奏法を、2回目の授業では小鼓も体験し伝統芸能の継承する意味や難しさなどもご理解いただいたかと思います。

日本における伝統芸能の環境は様々ですが、ただ共通なのが未来への不安でしょう。このような講義や体験を通し、一人でも多くの方にご理解いただく事が未来へ繋がることだと思っております。（田中傳次郎）

● 講義概要

第一回 歌舞伎鳴物について、その継承方法や現状、太鼓・その他楽器の種類や材質について、楽譜についてお話いただく。大太鼓を使用した様々な表現を学ぶ。実際に実演していただき、塾生も「儀式音楽」「自然描写」のいくつかを指導していただく。

第二回 大太鼓を使用し、心理・背景・時刻等その芝居の場の状況によって、同じ音でも様々な変化すること、歌舞伎音楽は芝居の情景を“表現”するものであることを学ぶ。次に数ある表現の中から「雪音」「ドロ」の実技に挑戦する。情景を思い浮かべながら打つことに挑戦するが、まず規則的に音を出すことも難しく、表現をするための基礎の難しさ、見たり聞いたりすることだけでは出来ない芸の世界を体験した。また、歌舞伎音楽は常に進化しており、「〇〇らしさ」を追求して新しい楽器、時には海外の楽器を取り入れる工夫もあるということ、歌舞伎台詞の楽しみ方などもお話いただく。また、小鼓も実演していただき、塾生も体験した。音をしっかり出せるまでに毎日稽古しても10年以上かかるという小鼓、全員打つのは初めてなので音は出ないが、伝統芸能の奥深さを感じることができた。



特別講義 人形芝居概要（2コマ）

講師：田中純 先生

●講義を終えて

人形芝居は何処から来たのか、ということから始めて、どのようにして人形遣いが生まれ、台詞を言うようになったのか、また台詞を言うということは何なのか等お話した。受講生に少しでも馴染みやすいようなるべく平易にお話したつもりだがどうだっただろうか。何故人形に糸がついているのか、糸で操るということはどういうことなのか、他にも考えることは多くある。受講生ひとりひとりがその答えを自身で見つけてほしい。（田中純）

● 講義概要

第一回 現存する日本最古の人形芝居、古表神社における動く人形の始まり、動く人形の辿ってきた歴史についての講義。古表神社の相撲人形が互いに争い、勝敗が決まる、ということはストーリーと捉えることが出来、折口信夫により日本の演劇のはじまりではないかといわれている。その後仏教その他の中からあらゆる物語が生まれ、人形は信仰の対象としての形代として存在し、江戸時代元禄の頃、近松門左衛門が初めて人形に性根（人間の情）を入れ、竹本義太夫と結びついて庶民の文化と共に人形浄瑠璃として発展させた。人形遣いが初めて言葉を使ったのは、芝居の幕開き前に曾根崎心中の後日談のようなものを演じたときで、人形が夢を見るような構成で、当時人気の歌舞伎役者の声色を真似、人形遣いが言葉を発したとのこと。その後、徐々に人形の時間を活かせる名作が少なくなると、物語に頼らざるをえなくなり、より歌舞伎的になっていった。

台詞を言うということに関しては、字面で言わず、読まず、読んで納得せず、批判を作家に突きつけることが出来るか、問題を見つけ出すことが出来るか、問題の中身を探し出して向かっていくことが出来るか、が重要となる。

第二回 結城座も始めは手あやつりの人形を遣っていた。それが糸あやつりになる過程について、また地面を踏むという日本的な性根について、三番叟の人形を実際にお持ちいただき解説・実演していただいた。



受講生のアンケートより（長期コース）

人形実技の進み方、講義内容について

- ・基本練習は、先生方がいろいろ工夫してくださって楽しかった。卒業公演の練習では、読み合わせと並行して、立つ・座る・歩く等、公演で使う人形での基本練習をしていただけるといいなと思います。（50代女性）
- ・基本稽古の大切さを日々感じるが、発表会に向けての稽古の時間をもう1ヶ月分くらい欲しかった。（20代女性）
- ・毎回、いろいろと分かりやすいように考えて下さり、また先生によっても特色があるので、色々な方向から練習したり、考えたり出来るのでありがたいです。（40代女性）

外部講師の方による特別講座について

- ・長唄で初めて三味線を弾かせて頂きました。弦を押さえる場所によって美容に音程が違う日本の楽器は、西洋の楽器や音楽の教育しか受けていない私達にはとても新鮮で不思議な興味深いものでした。（50代女性）
- ・素晴らしく貴重な体験をさせていただきました。どなたも普通でしたら直接教えを請うことが難しいであろう方々に熱心に御指導をいただき感謝しています。楽しい時間でした。（60代女性）

講座の曜日、時間帯、回数などについて

- ・19時スタートのおかげで、仕事終わりに駆けつけることが可能でした。週3回は大変ではありましたが、その分濃密で充実した時間を過ごすことができました。（60代女性）
- ・仕事帰りに通いやすい。週に3回はやらないと身につかないと思う。（20代女性）
- ・曜日や時間については充分すぎるほどだと思います。私には働きながら週に3回はなかなか難しいことも多く、悔しい思いをしました。（20代女性）

入門塾全体について

- ・稽古・卒業公演を通じて色々人形に出会い、それぞれの人形の個性がとても魅力的です。特に卒業公演では、結城座で本番にも使われる貴重な人形を使わせて頂きました。公演が終わったらおそらくもう二度と触ることも無いだろうな、そう思うと感無量です。（50代女性）
- ・私のようなド素人に信じられないほど熱心に御指導くださったことに心から感謝しています。自身でも一年前には思いもよらなかったのですが、今は江戸糸あやつり人形の世界に惹き込まれています。江戸糸あやつり、結城座、塾、そして日本の古典芸能の魅力をもっと広めて次世代へ繋げていくために何かできることはないのか、などということにまで思い至るようになっている自分自身に気づかされて、これまた驚いています（60代女性）
- ・いつも手板を持つと、「集中しなくては」という気持ちが自然と強まり、それが心地良いです。といっても、できないことがほとんどですが、先生方の厳しく優しいお言葉に何度も励まされ、塾の時間以外でも気持ちを立て直していただいていることがよくあります。人形を通して人間の動きや気持ち、暮らしを見つめ直すというのは、やはり私にとってはとても特別で、大切にしたいことです。（20代女性）

◆短期コース◆

人形実技（80コマ）

講師：結城座人形遣い一同

能の発声法と所作（2コマ）

講師：津村禮次郎 先生

日本舞踊（4コマ）

講師：西川右近 先生 西川鯉之祐 先生
西川貴美子 先生

●1日目 人形実技2コマ

江戸糸あやつり人形について、結城座の歴史についての講義の後、人形を持ち、手板の持ち方や遣い手の姿勢を学ぶ。最後は人形に足踏みをさせるところまで進む。



●2日目 能の発声法と所作1コマ、日本舞踊1コマ

（能の発声法と所作）能その他日本の伝統芸能についての講義、能面について、映像を交えながらお話いただく。お持ちいただいた能面も実際に見せていただき、先生が顔に当てて少し動いて下さった。後半は「高砂」の謡を教えていただいた。

（日本舞踊）着物を着る機会の少ない受講者に対して、帯の結び方や着物の着方をひとりひとり丁寧に教えていただく。そして、お辞儀の仕方、摺足、良い立ち方、振り向き方などから、おすべりや首の振り方まで教えていただき、後半は、女の踊り「京の四季」と男の踊り「五万石」の振りを少し教えていただいた。



●3日目 人形実技2コマ、日本舞踊1コマ

（人形実技）手板の持ち方の詳しい解説、膝以外についている人形の色々な糸の場所や遣い方を解説、実際に遣うところまで進む。

（日本舞踊）お辞儀やおすべり、首の振り方、方向転換について教えていただく。男踊り「五万石」を学ぶ。先生の動きをよく見ながら真似をする。

●4日目 人形実技2コマ、能の発声法と所作1コマ

（人形実技）人形を持つ際に不要な力を抜くこと、また、人形の体重を感じることに重点を置く。足踏みと足踏み前進が安定するように何度も稽古する。

（能の発声法と所作）足袋の種類・用途・歴史・履き方のお話の後、能「羽衣」の映像の一部を先生の解説を聴きながら鑑賞。「高砂」「羽衣」の謡、仕舞の基本所作を学ぶ。

●5日目 人形実技2コマ、日本舞踊1コマ

（人形実技）人形を持たずに正しい姿勢で歩く。数を数えながら足踏みをさせることで、台詞を言いながら人形を遣う稽古をする。

（日本舞踊）扇子の持ち方、摺足で歩く、おすべり、首振りの復習、「京の四季」を音に合わせて最後まで踊る。「五万石」の稽古。

●6日目 人形実技2コマ、日本舞踊1コマ

（人形実技）周りに合わせて人形を遣うことを学ぶ。円形になったり隊列を組んだりしながらお互いのリズムや距離感を感じながら人形を遣う。頭を左右に動かす糸や、顎を前に出す糸の遣い方を学ぶ。

（日本舞踊）「五万石」「京の四季」共に、音に合わせて最後まで踊る。



●7日目 人形実技3コマ

かけ足に挑戦する。人形の胴のつくり、頭の構造について解説。一度着物を脱がせて、着せ直す手順を見せながら、人形への糸の付け方、結び方、調整の仕方を解説し、体験する。



●8日目 人形実技2コマ

受講生が人形でやりたいと思っていたことにチャレンジしようと、これまでに学んだ糸を好きなように遣って、一人ずつ歌いながら人形を動かして貰った。また、人形同士が手を取り合ったり、方をたたき合ったり、2体が交流することにも挑戦した。



受講生のアンケートより（短期コース）

人形実技の進み方、講義内容について

- ・前半は人形をしっかりと立たせる、足踏みをする、歩く、という基本的な操作に終始したが、後半は身体の色々な部分の動かし方や人形の構造等を教えてもらい、短期といえども充実した内容だった。（50代女性）
- ・私にとって短期コースでは時間も足りず、覚えも悪く、人形をあやつる事の難しさ、大変さが少し分かった程度でした。講師が日替わりで指導して頂き、厳しくも楽しい毎日でした。（50代男性）

外部講師の方による特別講座について

- ・能も日本舞踊も数回程度しか公演等を観たことがなく、あまり馴染みのないものでした。実のところ、最初は何故能と日本舞踊の授業があるのかと不思議に思いましたが、受講してみても考えが変わりました。どちらの授業も人形操作に関わりがあるということですし、また、人形とは別に謡ったり踊ったりは思いのほか楽しかったです。（50代女性）
- ・とても贅沢な時間でした。短い時間だろうが素人だろうが、いいかげんなことはできませんという精神も含めて教えて頂きました。（50代女性）
- ・全く興味がなかったが、日本古来の至高の芸と知りました。日本舞踊では先生の熱心な指導のおかげで毎回講義終了時には浴衣が汗でびしょりでしたが、とても清しい気分でした。結果として姿勢が良くなり、時折「京の四季」の旋律を口ずさみます。（50代男性）

講座の曜日、時間帯、回数などについて

- ・日程がつまっていました。短期講座ということでは、回数、曜日等ちょうど良かったです。（50代女性）
- ・あくまでも短期講座なのでこの回数になるかと思いますが、あっという間で終わって、時間が経てば経つほどもう少しやりたかったと思います。（50代女性）
- ・良かったです。朝は早すぎたと思います。（50代男性）

入門塾全体について

- ・短期コースという願っても無い機会に恵まれ、得がたい時間を過ごすことが出来ました。入塾し、短いながらも人形を操ることが出来たこと、各講師が休憩時間に話してくれた体験談、余談を聞いたこと、結城座の方々、糸あやつりに興味を持った人達、関わる先生方と共有する時間を持てたことがとても貴重で、何とも比べようのない体験でした。私にとって今年の夏の一大イベントとなりました。（50代男性）
- ・濃厚で充実した時間でした。ストンと刺さる言葉をたくさんいただきました。指の痛みが少し残っていますが、痛みをふとした瞬間に感じると、誇らしいような気分が混じります。（50代女性）
- ・なかなか作業に手がついていかず苦勞しましたが、とても充実した時間になりました。少し慣れてきた所でしたので、お人形にさわる機会がなくなって寂しいです。（50代女性）

人形実技の講義を終えて

結城座の入門塾を始めて早二桁の年月が過ぎてしまいました。延べ二百人ほどの方々が入塾されました。ある年は、小学生が。又ある年は八十代の新入生と、本当に色んな方々との出会いです。その中に四年間連続の塾生が五人もいました。その内の三人が六十代後半から七十代の方です。正直に申しますと、目に見えて進歩するはずが無いのですが、毎年毎年、週三回、雨の日も雪の日も休まずに稽古場へ来ます。私は、この江戸糸あやつり人形を「次世代へ継ぐ」ということが、この結城座入門塾開校の最大の目的でした。その為、高齢者の彼らを指導することに戸惑いも少なからず時としてありました。しかし、彼らはどんな状況でも出席し、殊に卒業公演での嬉々とした姿を目の当たりにしますと、「彼ら達の人生の一部に結城座の人形が不可欠なものに思えてならない」……不思議とそう思えてならないのです。

私が目的とした「次世代へ継ぐ」という本質とは違うものの、江戸糸あやつり人形が彼らの生きる喜びの一助を担っているような…そんな風に思えるのです。彼らの人生でこの塾との出会いがあり、そして私達との出会いがあり……何かあたたかいものを感じることが出来るのです。

十二代目結城孫三郎



文化庁委託事業「平成 28 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」



主催:文化庁

公益財団法人 江戸糸あやつり人形 結城座

国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」 「東京都無形文化財」

〒184-0015 東京都小金井市貫井北町 3-18-2

TEL 042-322-9750

FAX 042-322-3976

Email info@youkiza.jp

<http://www.youkiza.jp/>

協賛: 東レ株式会社 後援: 小金井市

印刷: 社会福祉法人 東村山けやき会 平成の里

結城産

